

## 笠嶋日記: 書籍から省略した日付の日記記述

1948年

【一月四日】(日) 晴 豫記 家事手傳い

公休出勤C 5号交替ひ。

【一月七日】(水)

パワー二番方なるも停電のためし仕事なし、就寝せりは七時なり。

【一月八日】(木)

六時五十分起床、定刻出勤すれば九時に到りて受電運転開始、四時過入浴。

【一月十三日】(火) 晴

冬期間、希にみる好天なり。七時半起床。午前中ベルトはぎ、午後よりバンド製作完了、四時パワー出勤、R 8 自噴中なり。交代時より東風感ず。

【一月十四日】(水) 曇

八時十分起床、午前中便書き午後より晝寝、定刻出勤。十二時入浴帰宅。伊藤、吉田へ便り出す。

【一月十八日】(日) 曇

パワー一番方にて八時退勤後朝食して入浴。夕食後ノート整理をやり就寝せりは八時、十一時三十分起床パワー出勤す。

(手内職・雄辯街研究・良書撰○)

【一月二十一日】(水) 快晴

朝雷雨なるも後快晴。パワー一番方退勤後朝食午前中理髪やり、午後より埴川電話、夕食後木藤・石郷岡へ連絡をとって就寝せりは九時十分なり。品田先輩へ電話(明日松頼会について)

【四月二十四日】(土) 曇

風強く時々小雨降る。

六時四十分起床、R 8号線導作りなるも風はげしき為、暖室当番四時退勤後、入浴し夕食後局で雑談十時帰宅す。幻燈フィルム到着。今調予定本項は全部良、特別に英語をやる。

【七月二十八日】(水) 曇

六時三十五分起床、空模様悪けれど舞台作りにかかり、午前中やや完了。午後より駅前へ杉の門を作る。四時五十分終了、小馬の運動に出掛け、夕食後公民館にて御輿修理(○)し帰宅せりは十一時、就寝せりは十二時なり。

【八月四日】(水)

晴五時頃より夕立来る。

七時起床、吹出物痛みしため終日ぶらぶら夕食後痛みしため九時就寝せり。

菊池茂雄より便り。

1949年

【二月三日】(木)曇

豫定 二番方

暖かく寝心地良きため、起床、せりは十一時。朝食を済まして気持ちはっきりせず“砂丘”原稿整理し丸山宅へ送付し、二時半出勤し即時入坑して二片号にて諸準備完了後、都合により本向ロングの天盤切り作業終了せりは八時過ぎ。胃悪く力は入らぬも出坑後入浴して帰宅せりは十時二十分、夕食を済まして就寝したのは十一時三十分。

【二月五日】(土)曇

豫定 二番方

九時起床、朝食を済まして休養していれば自宅より手紙来る。菊池(芦別)、石田(敬)よりも菊地に返事書き二時出勤し、勞務にて北島さんに入寮を頼み、快く招諾され直ちに新興寮に行けば、明日来てくれとの事で下り、本向下部現場なるも空車廻り悪く帰宅せりは十二時半。夕食を済まして就寝せりは一時半。

あれやらう、これをしませうと思ひども炉端の花に実はならずして。

【二月六日】(日)晴

八時起床、朝食後ぶらぶらして十二時五十分入寮問題で新興寮へ行くも要良を得ず、直ちに帰途につき途中おやき等食べてくる。晝食は鮎物の油揚げ食ベ夕食は更にうどん食べて就寝せりは九時前なり。

【二月八日】(火)晴

五時三十五分起床、寒氣はげしきため三時過ぎより眼をさます。今日も後藤の後山で下部現場にして作業終了入浴して帰宅せりは五時前なり。夕食後も入寮問題のため落ち着きなく日記もつけず就寝せりは十時三十分。

【二月十二日】(土)小雨

五時半起床、六時半〇出勤し下部現場なるも良現場なるため十一時半頃終了し全面完了せりは二時半。出坑後入浴して夕食をとり、故郷山本・岸・委員会に一筆し就寝せりは十時なり。

【二月十三日】(日)小雨

豫定 公休出勤

五時二十分起床、公休なるも出勤し採炭に従事す。後藤の後山にて下部現場三組かかり終了後、出来上りで帰るは十二時過ぎ。入浴後仕事手につかず四時頃夕食を済して就寝せりは十時なり。

【二月二十六日】(土)晴

久し振りの超安眠で十時二十分起床。洗顔、歯磨いて十一時半朝食(スイトン)すまして、此の頃特有のサボリ病につかれ嫌で嫌でたまらなく、晝食後出勤し田口の後山で現場切上げせるは十時。帰寮後入浴夕食して就寝せりは十二時半。

【二月二十八日】(月)

叔父宅にて七時起床、朝食を御馳走になりフトン送付準備完了す(フトン、服地、地下足袋、乾パン、キャラメル、カン詰)十二時帰寮し朝食を食べれど、昨日の試合疲れで身体ぶらり晝食後地下足袋修理せるも針折れしたため中止、三時出勤す。後向浅野の後山にて現場硬く作業終了して帰寮せりは十二時半。風強く寒さはげしきため入浴直ちに就寝して夜食を食ふ。

【三月八日】(火)曇

寒気はげし、五時半起床二十分出勤すれば一番乗りなり、吉田の後山で現場は下部原動機調子悪く終了せりは三時過ぎ。帰寮後夕食をして市街へ万年筆買ひに行く。ペン二五十円・万年筆二百十円、其の他百円帰って作業衣の修理し日記付けて就寝せりは十一時半。

【三月二十日】(日)曇

朝ウドンを受けて食えば眠気なく十一時に離床し晝食後町へ出掛け理髪・靴下・聖書等八百円近く使って帰り、夕食後中村氏よりの結婚のみやげ御馳走になり、腹工合悪くわかもと飲んで就寝せりは十時半なり。

山本へ

【三月二十七日】(日)快晴

七時半おきて飯をもらひ寝所にて食べ、九時本格的に離床して叔父宅に向かふ。馬鈴薯を食べ夕食に〇〇〇〇〇御馳走になり、九時帰寮す。夕食を済して就寝せりは十時前あゝるも入床してからも眠れず、思ひのままに筆をにぎる。

【四月四日】(月)吹雪

四月だと云うのにまだ雪が降り幼時の登校時を思ひ出す。九時に起床、分配で長杓を買ふ(三百七十八円)。前回の懇親会の会費一五〇円拂い、石けん二ヶ受ける。定刻出勤し本向二番方須藤の後山なり。空車廻り悪く帰寮せりは一時。

小川に便り書く。

【四月八日】(金)曇

十二時半起床食後、自宅妹へ手紙を書いて出勤す。最下部現場にて藤枝の後山で帰寮せるは一時、入浴後飯をたいて夕食し就寝せりは三時なり。

【四月十二日】(火)曇

自宅の夢を見て起きるは十二時半。晝食後「炭砵めぐり」を抜書し日記整理して三時過ぎ出勤す。今日も同じくベルト掃除で昨日と同じく帰寮せりは二時、入浴して直ちに就床す。

【四月十八日】(月)曇

五時半起床、肌寒き外気にふれて作業衣類の購入に行き、ズボン二百五十二円買ふ。九時院病に行き休まうかと思ひども無理に出勤し、ベルト掃除をやる。本日より採炭〇〇時間八時間と〇て十時過ぎ帰寮して就寝す。

支出 三百五十円

【四月二十一日】(木)曇

空なる気持ちで床を離れるは八時、一番方の出勤後なり。食後の休みもそこそこに病院へ出掛けるも醫師不在につき止むなく温泉行き準備してカミソリ、行履等五百保十円支拂つて帰る。晝食の根鈴と共に飛行きて食を済まし、男余尺の身体をあまし四時叔父宅に向ふ(蛸を)夕食にありつき八時半帰寮せどもねむれぬきに筆をもつ。

支出六百円

【四月二十四日】(日)曇

八時起床、食事を済ませば再び床に就き十時より部屋の大掃除をやりストーブ等に移設する。晝食後第一校にて籠球練習を見物に行き、四時過ぎ帰りて持米をたいて夕食を済ます。病のせいかがくしゃくしゃしてペンも手につかず七時就寝。

【四月二十八日】(木)

終日風引き加減なので床に就き、降りしきる小雨の音を耳にしてなぜか運命の支配に反ばくそたいせう操にからる。

【五月五日】(木)晴

八時起床、昨日の風呂で聞いた日和山の火口確かめに行く。リンゴ、タマゴ等もって遂に制覇し晝食時帰る。久し振りの登山にすっかり気分を良くし、登別紀行の一頁をかくも何だか頭かふれ思ふやうにかける。夕食後調子ついて就寝せるは十時半。

⑤百円

【五月六日】(金)小雨

久し振りに七時に起床、雨のために外出すること出来ず、終日部屋にて讀書したり英語復習したり、たいくつな一日を過ごす。同部屋の高岡健氏明日帰宅の準備をし、午後二時頃より雲切れ次第に天候回復す。眼むくもないが我慢して床に就くは十時半なり。

【五月八日】(日)雨後曇

七時過ぎ起きれば雨だった。雨のために憂うつになる氣持を押しひ、ながしら讀書せるも何んだか氣持ちが落ち着かず、英語本だせども昨夜良く眼むれぬため眼むくてやり切れない。晝寝して起きれば次第に晴れつつある地獄谷で夜の景觀を見る。九時より入浴して十一時就眠す。

【五月十日】(火)快晴

近頃になき快晴と暖氣旺盛なり。七時起床、午前中向いの山に休み帰りて晝食を済まし、晝寝せる時小松氏訪づれ地獄谷見物に行き、夕食後例の如く散歩し子供等に菓子買ってやる。八時半入浴し隣室で遊びて十一時就寝す。

新興寮中村氏より。

⊕百三十円。

【五月十一日】(水)曇

六時四十分起床、食後小松氏の子供等つれて大浴場へ行き晝食後駅まで送り帰りて、飯を炊きおかずを買ってたべ、夕食后市街散歩に行き隣室で寓話を辯じて九時入浴、就眠せりは十一時なり。

【五月十四日】(土)雨

七時十五分女中に起されて離床す。朝を済ませども頭重く眼くてやりきれぬ。一時半帰郷者を送りて晝寝す。夕食後隣室にてしばらく休み九時入浴し十時就寝し。

中村氏より・寮長へ。

⊕百五十円

【五月十五日】(日)晴

五時頃より目をさませども湯疲れのためか起きられず、七時半起床朝の散歩しみやげ物注文して帰り、晝食後フキ取りをやり夕食に煮てたべる。食後〇〇と又話をして就寝せり。入浴三回。

【五月十七日】(火)晴

六時四十分起床、晝過ぎ白川氏を送り帰りから飯を炊き、佐々木君と懇談し夕食後再び来りて十二時までさわぐ。就寝せりは十二時過ぎ、登別紀行書く。

入浴四回。  
「登別紀行」という文章を書いた

【五月十九日】(木)曇  
七時二十分起床。

【五月二十九日】(日)晴  
七時半起きるも神系疲れて何事も手につかず、三時半頃鹿ノ谷へ行き夕食して九時半帰寮す。

【六月十七日】(金)雨  
四十五分起床、空模様悪くなりコンベ掃除終ひ出坑すれば雨が降り、畠持ちの鋤夫を雇はせてみた。夕食後何時もの如く七時頃起きるつもりで床につけば、寝りはげしく遂に九時まで眼り、あまりおそいのでそのまま朝まで……。

【六月十八日】(土)曇  
五時四十五分起床、作業前より副長来るもコンベ調子悪く現場未完のままで帰る(コンベ掃除)。入浴フンドシの洗濯し夕食後渡道日記整理して就寝せりは十二時。  
丸山氏へ。

【六月二十九日】(水)晴  
豫定 公傷  
六時四十分起床し朝食を食べるもたいくつで仕様がなく再び就寝し、晝食後ジュバン一つでん窓から吹き込むそよ風に吹かれれば、正に内地の縁側に涼みし事を思ふ。就寝せりなり十二時過ぎ、病気のためか憂うつで足まらなく、花戀しの氣で一ぱいとなる。  
佐藤(悦) 帰山す。

【七月一日】(金)曇  
豫定 通帳くる 公傷  
六時半起床、朝食後再びフトンに入り就眼中、九時事ム所に起こされ十月～三月マデ差額金二百円貰ひ、部屋を掃除しアカシヤの花をかざりて晝食す。山本君来りて籠球部について話し五時までに渡道日記一九四八半分終了(整理)す。夕食後アカハタ来り、八時高野君来て九時帰って入浴なはとびやり。

【十月一日】(土)曇  
十五分前起床、二時間の職場大会のため時間ぎりくに出勤す。大会終了後直に入坑、ピックにて根堀し特〇の枠付けて帰るは約三時。夕食後外出し市街散歩に出掛け徒々なるまま

に歩いて帰途。おかず買ひスネトン作り満腹感にひたりながら雑談休養し、手紙を書いて一時半就寝。㊦百円

1950年

【一月二十一日】(土)

六時起床。休日待つ身の長さも今日限りと張切って出勤す。一時に現場終りし帰寮後ダンス同好会に応じ入浴。夕食後、一千五百円支出す。いひしれぬつかれのため十一時就寝す。

【一月二十二日】(日) 曇

九時半起床。シルコなるも甘味少なひためサッカリン買って入れ粉若干用ふ。十号室で石川氏と社会問題について話し、四時過鹿の谷へ行き九時帰れば、ダンス同好会の盛大さにおじけついて中へ入れない。寮主、寮外来者の独占振りに不満の寮主に同情し中村会長と猛烈に議論斗わし、十二時就寝す。㊦四十円

【一月三十一日】(火)

昨夜より降りしと思はれる雨は、其の後風を加え寒中には珍しき雨嵐となる。火も炊かずに出勤すれば三車。日頃まで元氣旺盛なるも急に体力おとろひふらふらの態で帰寮す。夕食後、伊藤と二人で入学用品講入のため出街するも途中にて停電に合ひ、うらめしき社会制度よとなげきつつ光々と輝く会社〇の寮へ急ぐ。

タコさん買ってソースかけて食べるも、又変った味覚なり。㊦一千百円 ㊦萬年筆 二〇〇円 其他 三〇〇円

【二月二日】(木) 曇

昨夜若干早眠せしたためか四時半起きるもあまり早きため又フトンにもぐり振鈴と共に起き、ストーブを燃して出勤す。マッチなきため十号室より借りる。七時時間一ぱい出勤すれば現場同じく追切りで研(ずり)九車積む。三時帰りて二月よりは計画的に勉強するつもりで四時半頃假寝すれば十時頃おきるも、火入れただけで再び横になり一日を無駄にする。

【二月十一日】(土) 晴 暖

九時起床。郵便局で自宅へ送金し分配でくつした等講入し帰って部屋掃除をやり晝食を済して、三時出勤し留付けて帰るは八時前四十分なり。ラヂオ等聞き雑談興じ一時頃就寝す。発信 自宅送金一千円也 二千円

【二月二十五日】(土)

待ちに待った楽しみの土曜日なる故八時食事を済し、今夜の徹夜を楽々さゆるまぶたを

無理にも閉じて寝ずばなるまい。高鳴る血汐はやがて社会の改革と人類の幸福を双肩になって起つ日の前ぶれと強くうつ情熱の大とを…。

十一時起床。兩食を片腹に治め尚平然として入坑す。先山の休日なりしたため現場かからず九日抜で下水掃除をやり、仕事も期くあればと忖く苦勞をうれひて薪割をやって九時帰り、入浴後会計監査2監査を受け十二時終了。郷土色豊かなもち食べ就寝せりは二時半なり。

### 【三月十八日】(土) 曇

春光のどかな彼岸入の一日も昨夜の親睦会のたたりで目覚より夕方に至るまで吐氣強く、氷をも受けず。胃液の逆上は眞に胃袋千切りられる程の苦しみに。さして飲みもしなかったのに食当りか？大好物のホッケも見ると吐氣をそそるつらさは生後始めてだ。昨日帰郷すれば今日はなつかしの兄弟達に迎ひられて楽しく彼岸を迎ひたらうに全く今日の苦しみはつらい。五時より略落付きをみておかげ少したべ九時半就寝す。

故郷に思ひはかける床の中今朝の苦しみせめて親元で。

### 【三月二十四日】(金)

今晚は徹夜出来るぞとひそかに菑んだ。それは十時過ぎまで久し振りに良く眠れたからだ。二三日中はみなれぬ位いねむた。さて二番方に出勤してみると、明日は保安要員だった斜坑掃除で1車出しトロ押し疲れのためか身体の調子も悪く、帰寮後も平常ならず

### 【五月二日】(火) 晴

ねむくて起きれないのは独り僕だけだらうか？何時も寝返りを打たうとして時計を見れば、最早起床時間なり。名残りを惜しんで離床す。現場へ行けばバツタに流水しひぎまでぬれて、二時四十分帰りバスケット練習に行くも、不在のため理髪やって帰る。

㊦五十円

発信 木村政雄、佐々木幸芳

### 【五月十二日】(金) 晴

豫記 春季バスケット大会一中優勝す 山神祭

八時半よりのバスケット大会に参加するつもりなるも起きた時がすでに八時半。入浴食事もそこそこに行く。第一回戦優勝候補一中とぶつかり軽く一蹴さる。校庭で野球大会をやり引分けに終って再びバスケット大会見学し帰寮後、市街見物に揃って行く。大した変りもない街を歩きつくしネクタイ買って帰れば、なれぬ体の疲が急に出て早目に就床す。㊦四百円

### 【五月十三日】(土)

晴なるも風強し



自治会大会の予定で八時半起きれば流会との事。シャツ等の洗濯をやりアイロンかけてみる時、去る二十六日帰郷した新千代田菊地氏来り。一ぱい飲み内地の話等して次週土曜の再会を約して帰る。金詰りで困りし事又希望の件等もあり八月にはぜひ帰って友人にも色々語り合っ見てたい気持ちきりに起り、笹巻の郷土色も印象に残る数々に飲み始め、最後は十号室で議長制による所の討論をやり一時過ぎ就寝す。 ㊦一百円

【五月十七日】(水) 晴

昨夜のおそ寝にもかかはらず五時五十分起床。身体の疲労を気にしながらも稼働しなければ明日の生活にも差支へる我々の環境のためしぶしぶ入坑す。今日も無事に作業は終えたものの、最近仕事に身が入らず身体の調子と合わせて考へざるを得なくなる。入浴後直ちにフトンもぐり七時半頃代議大会対策のため昨日の執行委員会の経過をまとめ資料整理等やり、十一時半就眠す。

【六月三日】(土) 曇

昨日の疲労のためか現場へ行っても仕事が身にこたひる。二時半帰り洗濯等してすぐフトンに入り、久しぶりの開放された一日をゆっくり送るつもりでみたが、来客多数のため九時頃起きて雑談に花が咲く。石川(康)氏にもみ療治をやらしてもらひば気分爽快となり、十二時も過ぎ朝になりて就眠す。

【六月五日】(月) 時々小雨

始めて寮連よりグローブ来りしたため、野球熱いやに高く時々的小雨をさけては裏の広場でピッチング等練習し、十時頃入浴し石川康氏より身体のもみ療治をやらしてもらひ一時就寝す。

【六月十九日】(月) 梅雨

梅雨の如き糸を引く雨に寝心地良く五時半眼覚むるも、起きる気なく十五分に至り大急ぎで飛起き出勤し、係員の巡回早きため時間おそいのは何故頑張るかと思ひ仕事がいやで足まらない。がまんして来たが其の割合に早かった。帰寮後も落ち着きがなく食欲も進まず、尚此当分(半年位)フトンにもぐり込んだ。マクラデスクのくせを直すべく机の上に花でも飾らうと思っ気分転換方々花びん講入のため散歩を兼ねて市街へ出る。久々の目に与へるしげきに満足しつつ帰り、十号室戸田利夫君の結婚祝の宴会をやり。 ㊦二七九円

【六月二十七日】(火)

発信 法大、浅田崑代克

【七月十日】(月) 晴

月曜日の朝からのバツタにはすっかり気分壊わさざるを得なかった。一回として満足に下る事なく車輪廻わらざるありで非憤広概せり。二三日降り続いた雨と注謝の夢状より覚め、七月も半ばと云ふのに今日の涼氣は九月過ぎ萩の花咲く頃の氣候で、近頃になき壯快なる気分で思考力も倍加しかねての希望通り「思出」(假定)を書き始めむ。どの程度書けるか、階級的な文化向上を叫ぶ我々の眞の意向が書けるか否か……。しかし書く上<sup>上</sup>で自由を求める若人の青春のために心行くまでよあう。

【七月十七日】(月) 曇時々雨

五時三十分にはもう目ざめ、ゆっくり休養をとと思った。日曜日好きなバスケットの爲にはすかり犠牲にせざるを得なかった。お陰で今日はさっぱり疲労が回復してゐないが、一日入坑しないだけで仕事に対する感覚は別だ。三時帰寮後、機電諸沢氏に電話。明日の会合を約し、六時頃より十号室で明日連協会の議題審議をやり、ここでも僕の態度をはっきりすると云った。坑内でも云った。しかし鮮明にする事が出来るか? 断じて今の〇三〇(部三部?)と偽かう。動かう。精力斗争〇〇(うぞー?)。

【七月三十日】(日) 晴

あつさきびしきため一時頃まで横になりてくらす。四時叔父宅へ行くに神社前で待てどもバス止らず、思ひがけぬ失敗して三週間振りで新千代田方面おとづれる。

⊕一百三十円

1951年

【一月八日】(月) 晴

豫記 宿直

昨日の議事録並に決定事項の具体化に一日を終った。すなはち、スクエヤダンスダンスパーティーは佐々木君を呼んで種々決定し、残されるは会場だけとなった。宿直を頼まれ作業の都合もあり二つ返事で引受けたが、友人尋ね来て宴会となり、尾崎・小山内も来り。盛大以上のものに発展した。民間⊕の討論もあって、十二時までがくくやり、結局就寝せりは二時なり。

【一月十一日】(木) 小雪

豫記 宿直

保安技術者試験願書を鋳業所に納めたが、卒業証明書おくれたためあわてふためきつゝ発送したら、願書は鋳業に有るとの事。しかも、本日の消印なきものは失格となるため郵便局に問合せ、開函を待つて押しかけ、やうやく四時に終了す。頭初からあやの着いたこの試験。果してうまく行くや否や? かうなった以上、何が何んでもやり抜くぞ!! 絶体に落伍して

はならぬ。男の意地にかけても身体がつぶれるまでやり抜く覚悟だ。こゝ当分なかった持前の負けん気で晴れの國家試験にパスして見せるぞ!!

十時頃佐々木(純)君ビラ持来りて雑談にふける。佐々木正君電蓄・マイク修理に来る。  
発信 札幌鉾山保安監督部

【一月十二日】(金)

今年の初夢は農村騒動に赤はたを振り、陣頭指揮に立つ紅顔の美少年の夢だった。山と積まれた米俵をおそった農村と警官との間には物すごい争が、お互に生活権よう護ために繰り広げた。警官は自分の職務である以上、濃厚なる職業意織でやり、一方は云わずと知れた農村困窮の中から盛上ったこの斗争は押しやうもなく、一人の美少年の總指揮の下に全員団結して斗ふ力。これがこの主人公の恋になやむ所の唯一のものだ。慎重に…。

受信 佐賀井英三

【一月十四日】(日)曇 嚴寒

豫記 地区寮連幹事会

ほんの暖間的眠った感じだったが、眠からさめると八時過ぎだった。こんな男か?と思われる男が寮次長として常駐組合員の血と汗で積立てた組合資金からの給与を仰いでゐる例がある。こういう事によって組合員の組合をみる目が変わって来るでなからうか?お互に常駐或は役員になった時は責任の重大さと事態の重大さを感じ、批判の対象となる言語・行動は大いにつまねばならぬ…一面レッドページに引かゝり堅い信念の下にあらゆる断圧の手を拂ひのけて斗え続ける寮員もゐる。副長が茶果子を買って受諾を觀告に来たが、行く所がない、行かぬではね返し、副長も止むなく別途考へようで帰ったさうだ(何時もながら)。

発信 金田邦雄

受信 本庄昇

【一月十八日】(木)晴 暖

豫記 長沢君病状悪化 コーラス練習 石川康吉氏入院

七時前に起きる程の熟睡振りで、身体の疲れもとれたせいかわ落着も出て来た。今日は別段これと云ふ仕事もないので、國家試験に備えて「保安法」を読んでゐる時、病院よりの連絡とて長沢君の重態につき増田氏より相談され、親元並に弟へ電報電話連絡をなし訪問すれば、大した悪い状態も見うけられず、神系過敏と自覚症状により見舞を感づかれてはと思ひ、平常の状態で話して帰ったが、やはり少り大げさではあったが、身内に連絡した事を一応成功と思ひ、来夕した時の食事其の他についての心配となった。十時半頃石川康吉氏が丁度一年振りで電車にてやられ、十二時頃入院。帰って入浴したのは一時過ぎ。

発信 石井実(送金)

受信 山本満穂

【一月十九日】(金) 晴 暖

正月も忘れかける程長く叔父宅を訪問せぬため、心配してゐるじゃないかと思つてゐる時、こつぜんと忠君来て明後日は必ず来るやうにとの出迎となり、ぜひ行き度いと思う。一度はどうせ行って御説務をうかゞはねばならぬし、又それまで心配してくれるであれくあるだけ行かねばならぬ解しゃく等一。

急がしさを考へる事も仕事だと思ふ人は絶体にひまをつくれぬ。なぜならば、あれもこれもやらうと思つてゐる中に頭の中が一ぱいになり、それがすなはち実行する事よりも考へる方が忙がしくなる事である。したがって、思ひついた事は即時実行に移さねば、ゆとりは出来ない。

【一月二十二日】(月) 雪

豫記 宿直

今月になって早くも五回目の宿直だ。このおかげでたまには知人友人に近況を知らせる事が出来ると云ふわけで、せめて一週二回位あつても良いと思ふ。悪い々と知りながら帰寮すれば、十号室で遊んで帰るし、又眞直部屋へ来ても騒々しさに勉強する事も出来ず止むを得ず。

三月の國家試験もあと一ヶ月となった。大急ぎで、しかも四百円をかけて落伍したら馬鹿くさい。一つの事をやりとげる事はむづかしいが、あくまでもそれを欲するが人間の本能だ。長沢君の事を考へるせいか夜もろくに眠れず。十時半頃安全燈に電話で起され面白くなし。受信 妹より

【一月二十四日】(水) 曇

豫記 夕駈労連常任委員会

今年になって一番不愉快な日~~~~~長沢君入院後の情況悪く電報にて呼寄せた兄が明日帰ると云ふわけで、山積せる仕事半にして帰れば、酒一升おいて親せきへ行つて話!!

貯金通帳・持物の整理其の他の事が多くあつたのに、過去半年以上も知らぬ顔しておつた親せきへ出掛け、最後の仕末までせねばならぬ俺・食事の心配・療養の心配をしてくれた寮長に対して一言の挨拶もなく打合せもせず帰つた事は、全く子供同様馬鹿にされてゐる感じだ。誰が誰のために今まで何をやって来たか!! 病人が全快の見通のない事知つての色々な非人的な考へ!! 全く人間の世界がのろわしくならざるを得ない。今少し深い考へをもち度いものである。

【二月三日】(土) 曇 暖

常任委員会中、確實出演を約してゐた楽団ホワイトカミリーより、欠員出来たため出場不能の通告を受けたが、今後の事もあり次々と崩れ行く文化サークルを育成しやうとする身

には苦難がつきまとふが、我は最後まで正義を愛し眞理を追求する。衰弱しつつある胃も眠不足からくる疲労と見てよい。此の中で固く約束を守るため、かり集めの楽士にて深更まで組合宿直室を使用するため、責任上大塚氏と代り宿直をやる。自転車泥棒割引券を発行せるに、一五十枚近くはけ、一応成功したと云ひる。七日よりのスト指令出てゐるのに、映画批評会をと思ひ青婦対策委員会招集状出す。楽団演奏練習のため二時就寝す。

受信 長沢肇、丸山緑

【二月五日】(月) 曇 暖

何んとかしてストまで或はスト終了まで身体を保持したい一心で、背中が苦しくなり若しやのケ念もあるが、睡眠さえとっておけば又暫くは大丈夫と九時半就床する。市街も行かねばならぬ(長沓)。自宅並に友人へも返信を出さねばならないが、それも健康を保持するためには一応保留だ。すべてを忘れて農労開放に邁進せねばならぬ。決意は新にして来るべき共産党非合法化による組合運動の骨抜き解放をも考へねばならぬ。その時の対策としても考へておく必要があるから、書きならべただけでうんざりする程の問題ばかりだが、組合に来てから日々太るのは、どうゆうわけか体質による完全消化を考へたい。

【二月二十四日】(土) 晴

豫記 宿直

代議員会対策で中斗不信任の問題で、常任委員会十二時までかかり、結論は出方が我に不利なり。斯くも長くなる事は一人々々がそれだけ眞儉に考へ、少なくとも二週間のストの効果を充分生かし度い事と中斗か?我々か?の事で眞儉ならざるを得ない必然の結果である。昨日から續けた議事整理も立板に水を流す如く言われるので半分しか書けず、整理にも時間がかかり志願して宿直をやったが、これでも未だ半分しか書けぬ。保技の国家試験も目前に迫ったが頭のう晴やかならず、スランプを脱却しやうとして焦れば焦せる程迷想する。これではと思ふが、一日も早く立直り度い。明日は籠球大会もあり。 受信 鉄道便受験表

【三月一日】(木)

豫記 「映画批評会」(自転車泥棒)

充血してるせいか頭が晴々せず、病院へ行くつもりなるも時間の都合で行けず。さりとて仕事も手につかず、本当に相済まない。階級的な良心に恥じる行動は、國家試験に備えるべく保安法期の勉強をやって、組合の任務については何等なすところがなかった。~~時間は一刻もほしいが、さりとて今からじゃ出来るだけしか出来ない。スト中のブランクを取返すため、文化活動を活発にやらねばならぬ。折からの暴風にて集りも悪いと思ったが、敢えて「批評会を開催した。量的には少ないが、質的にみたら新夕張の一流どころを集め、イタリヤ映画の学ぶべき桌、又邦画に対しての通烈な批判をやって、如何にして吾々の文化を守るかについての集ひとしては一応成功した。

【三月二日】(金) 晴

豫記 (午前中有休) 夕職労連常委会

午前中は休まうと決心した。他人は何んと批判しやうとも吾が良心は攔む事が出来ぬだらう。昨夜の遅かった事もあるが、少なくとも五〇〇円もかけて受験したからには、どうしても及第し度い。休んで十一時まで眠ってしまった。正後出勤すると同時に夕職労連の常任委員会で、頭のぼやけてみる中に終わった。出来ぬ頭をしゃに無二しぼり出して短期決戦を望んであるせいか、肩は凝り血圧は高くなり、再び味わふ試験地獄。これ程労働法でもやったらと思ひば、この國家試験制度も詰込みであり、單なる形式的なものであれば、むしろ止めた方が良いときさひ思ふ。スト減収対策そして寮賄費問題も持込み、明日交渉する事となった。

【三月三日】(土) 曇

どこからか幸運の便りでも舞込んで来るやうな氣がしてならない。斗争の最中にと絶叫した事も、労連の腰抜け中斗にかゝってすっかり水をかけられる。当支部の全山無記名投票も、一に明日よりの労連總會にかゝってゐるが……。一編水をかけられた斗ひはすでに消えかゝってゐる。其の責任は一体どこにあるのか？吾々は例ひ總會で否決される事が解つてゐても、間違であつたとは露程も考へて居ない。あくまでも正しいものであり、それは後程はつきりとわかる時が来るだらう。

保技の試験に備えてと張切つてゐた氣持も後数時間で関ヶ原だ一。自分の進むべき道ははつきりと攔んで居る故に、尚更合格したい。職労合斗も良いが、職員横暴は資格をもつてたゞき出さねばならぬ～～。

【三月六日】(火) 雪 嚴寒

一と月半振り新千代田を一升ぶら下げて訪づれた。前に聞いておつた懸案事項もあつてか、何んとなくふん困氣が悪い。又、親達も嫁に対する態度が(健在な時と同様であり、又、爾後も同じ様に考へているやうな面も考へられ)少し考へねばならぬじゃないかと思ふ面もある。しかし、根本的には実に明朗過ぎる位いの親であるから、外部からの出入次第では完全に妥協出来ると思ふ。

いよく準備を備えて組合運動の本格的な活動をやらねばならぬ。一日の休養は明日の斗ひのために絶体必要な事だ。

【三月十一日】(日) 曇

豫記 「映画觀賞」

昨夏歸郷の節「肉体の白書」を觀賞して以来、まさに半年振りで反戦映画として石川達三が題名をもてあますんではないかと云われる位定評のある「風にそよぐ葦」を觀賞した。恋と仇の板夾の中にも戦争に対する反抗の斗ひ、弾圧を覚悟で正義を主張する「中央公論」出



版者。何れも昨今映画界をパージされた正義派の面々。書き出す反戦の斗志は満々として、見る者をして眞に戦争反対の気運を作らせる邦画として最近にない名作であるが、何かしら当時の状態と異った街頭風景と續ものであるとの所から、ぴんと来ぬものがあった。

二ヶ月近く御無沙汰致しました新千代田に菊地氏を訪づれ、相変らずの郷里四方八方話しと未来の希望を語る決り文句も御馳走された。二ヶ月振りの「北の餐」と共に毎度の事ながら快よくなり、九時半帰寮す。

【三月十六日】曇 暖（金）

豫記 映画批評会（風にそよぐ葦）

地方選挙の重要性は今更論をまたないものである。したがって、今次地方選挙に於いては必ず勝たねばならず、勝つためには眞の我々の代表を送らねばならぬ。そのためには既に活発な運動を續けてゐる会社側に喰われた票を奪ひ取る事が一石二鳥で、最も良い手段だと考へる。したがって、其の条件を具備した候補者は小山内・岡山の二名である。四名の立候補があったとて、岡山氏の辞意は認められぬ。坑外分会と昭和台だけでは心細いと云ふが、今や新夕張の岡山であり夕張の岡山である。小山如きに何が出来る!! ぜひ岡山・小山内を当選させよう。

映画批評会も第三回を迎ひたが相変らず集りが悪く、メンバーも前とほとんど変つてゐる。せつかく予定した要請文も計画倒れとなつた。学生の若々しい批評を聞きたかつたが出来なかつたが、今後も色々な形ちで續けて行き度いと思ふ。その中には主旨を了として参加する人も一人二人とふやして行き度いと思ふ。

発信 松田和徳

【三月二十一日】曇（水）

豫記 道労青婦代表者会議

昨日から走つた急行に乗つたまでは良かったが、昨日あまりくわしい打合をしなかつたために「若しや」と思つた事が適中し、遂対策次長をおいてけぼりにして出席した。議題もこれと云つたものがなく、單に中央大会の空気を傳えて討議させる意図のやうな氣がしてならない。「全面講和～自由世界、労連の関係等の質問して火をつけ、青婦代表者会議には今までない程の活発な意見が出たが、何んとなくはっきりしない会議だった。

地方選挙もいよく面白くなって来た。当支部の遅れを取返すためにも、ぜひとも主婦と、ていけいしなければならぬ。

幻灯機ソケット講入のため時間を費したが、遂に見付けた。映画を見れなかつたのは惜しいけれども、これで十二分の活躍が出来ると思ひば全身に力がこもる。

青婦代表者会議で全面講和とそれによる自由世界(?)の話、労連の関係について笠島氏が発言して活発な議論になつたが、結論ははっきりしなかつたようだ。また、地方選挙の中で、「主婦と提携」しなければならぬと主張。

【三月二十二日】晴（木）

豫記 第三回執行委 「楽器返納」

実力がないからと云ふのを無理矢理に労働会館に引張り出し、任期中には必ずものにしてみせると誓った。楽団もその後スト或いは其の他、とにかく多忙の日が續いてここまで来たが、任期も終了に近づきメーデーも目前に迫ったので、練習もやらねばならぬ所から楽器を一時返納し、早機修理を依頼した。原野氏の反労働者な行爲には噴ゲキしたが、考へれば相手になるのが馬鹿くしい。労働者も最早こゝまで来たかと思ふと情けなくなると共に、一戸のレジスタンスを大衆に植え付けねばならぬ。全くヒフンコウガイの機至る。何のためのスランプか。思考力がにぶり気が散乱して、あれやこれやを気にとめて何も出来ず、郷里を考へる肩に月が強く光を投げかけるのみ…。

【三月二十四日】晴 暖（土）

地方選挙法を調べたが頭に入らぬ。「忙中に閉在り」の氣休めも出来ず、組合を中心とした時局懇談会も市民会館でもたれ、国内外の情勢を把握し組合運動を一戸推進するために出席の予定で帰寮したが、いざ帰って見ると出る氣がしない。讀書しやうと思ひども春の息吹を身近に感じたせいか、氣が散乱して手紙も書けず、落着いて話しも出来ず。止むなく下山正五郎宅に雑談に行き、四方八方話に油が乗って十一時まで腰を落付ける。

県人会の觀櫻会も計劃せねばならぬ。夜間高校の籠球コーチのプランも立てねばならぬ。地方選挙対策・青年部対策と仕事は山積してゐるが、思索が全然きかない。五里霧中だ。あせればあせる程、解らなくなるが……。庶二無二進むはキケンであるが、解り切つてゐるが…。やらねばならぬ。やらねばならぬ。月は中天に輝いてゐるが、やはりおぼろに霧んでゐる……。

やる事が多く、焦っていることが見いだせる。この状況を笠島氏は「スランプ」だと感じているようである。

【四月一日】晴（日）

選挙戦猛はともなれば眠る日が少くなり、今までの衰弱もあり、今日は千代田へ出掛けようかとも思ったが、どうしても健康を保持する事が大事と、結局睡眠する事にした。バスケットはやり度い、選挙はやり度い、勝たねばならぬ、メーデーの対策を考へねばならず、仕事は山積してゐる。声も調子を整えねばならず、選挙には唯一の頼みの綱である喉は大事だ。一日の休養が千日の鋭気を養ふで、充分でない事はわかる。しかしながら、少くとも一月の鋭気は是が非でも養なわねばならぬ。休もうく。

知人友人にもくわしく近況を知らせ度いが、ひまがない。今日は一に選挙・二に選挙・三にメーデー対策で、四に花・小とりの飼準備、後に体育面で頑張らう。



【四月八日】快晴（日）

豫記 塚田庄平（市街地）

今日も晝まで休養した。次の日曜日はどうなるか知れない。おそらくわ終盤戦に入ったら不眠不休の日が続くだらう。批判されても良い。ゆっくり休もう。一月間は続かぬ身体だ。そのかわり、十五日以降は絶体に負けぬぞ。反対派のつけめだ!! 最初から全力を出さしておいて尻切トンボにするつもりか。斗ふぞ。少数であっても最後まで――。たゞ俺一人で動く力は知れている。大衆を動員しなければならない。女性郡もほしいが、鹿ノ谷をのぞいては来てくれぬ一。どうして来てくれぬのか？俺の努力の不足はよくわかる。もっと積極的にやらねばならぬ。

今日は体を休めて、選挙活動への英気を養う。鹿ノ谷を除いては、女性の動員がうまくいっていないことも書かれている。

【四月九日】晴後雨（月）

朝方の好天も間もなく猛烈な雨に見舞れ、選挙運動も仲々むづかしくなった。選挙斗争を勝抜くためにすべてを捧げた最近では、出勤しなくても落着いて居られぬ。形は机の上にあっても心は街頭にありて、啓蒙に余念がない。賃銀問題も山元へ下って来た。良く知らねばならぬし、斗わねばならぬ。しかし、選挙は尚勝たねばならぬ。断じて勝たねばならぬこの一戦だけに、やらねばならぬ。仕事は山とあっても、取合ひず選挙を勝ち、戦争をさけ、平和な国を作り、それからがすべてを解決出来ると信んずる。至らぬ臆は大会で批判を受けよう。とにかく全力を上げて平和と守らねばならぬ。

発信 北海労働者、川村千代崙

【四月十一日】寒（水）

四月の中旬と云ふのに寒い!! 全く寒い!! 選挙も中盤からいよく終盤へ入るべき時、相当の負である。天にもんく行っても仕様がな。とにかく親ゆづりの強力な足と喉にもの言わせて力一ぱいの斗をせねばならぬ…。全身に生気があふる。よし、斗ふぞ!! そして勝つぞ!! 卑怯者去らば去れ…。吾等統一候補当選を目指して徹底的に斗ふつもりだ。わざわざ鹿ノ谷から来てくれる情熱の人もある。生きる精魂をとにかくこの選挙にかけよう。若し二人の中唯一名破れたならば、組合を辞しても悔はない。とにかく国際情勢は緊迫し、マックは罷免された。これで世界の反響は？今や吾々は全力をこの選挙に集中し、自由党を倒さねばならぬ。

【四月十七日】曇（火）

昨夜の眠不足かどうか知らないが、全く眠い。しかし、下部の盛上りも追込戦になって、いよく高潮になって来た。この青年の行動力を如何に盛上げ、そして如何に結集するか。今後青年部に対する大きなカギになるだらう。一区の行動隊を含めて三十名にもおよぶ行動

隊を十分に仿かせて、吾々仿く者を一人でも多く政治に参加させねばならぬ。そして、反動吉田を打倒し、戦争を回避せねばならぬ。四区の班常会でも皆が眞儉に聞いてくれる。組織の結集された力がこの選挙で如何に現われるか？もしも破れたならば、次期は現場へ帰う。そして、力一ぱい下部から啓蒙するつもりだ。自由党を押ししているものもいる。会社側をかっついてる人もいる。全くこうゆう人達の気が知れぬ…。終了後は徹底的に批判しやう。

受信 能代工業高校

【五月十二日】雨後曇（土）

豫記 塚田氏訪問

バスケット選手権なるも、選挙の疲れも未だ完全になほらぬため、眼る事を第一に考へ忠実に実行した。

六時頃より道議塚田氏を訪問し、当選の祝ひと今後のホープについて語り、我々労仿者と共にある塚田、我々の先頭になって斗える人塚田を夕張におくかぎり、我が党は栄えることを確信し実行せねばならぬ。スクラムを組んで戦ふ時こそ、心からなる敵へのニクシミを燃やす。起て、炭砒労仿者。地下労仿の苦しみを、塚田を通じて反映するのだ。飲み過ぎは警戒せねばならぬ。すでに胃はこわれていると思って注意はしたつもりだが、照井・今野宅と訪問して遂にアウトとなり、今野宅に伏す。大したよっていなかったが、問題は胃だ。胃を丈夫にしやう。

【五月十四日】晴（月）

胃が悪いのと眠いのと比ぶれば、千八百組員から見ればどっちも同じ。組合の誠なり。身体は大事にせねばならず、自分の身体であって自分の身体ではない。千八百名組員の、否、全労仿者の身体であらねばならぬ。国際的には英國が米案に傾きつゝある。朝鮮の戦況、又、共産軍の一大攻勢を予想される時、國會に於ける吉田首相のダレス訪日の講和問題に対する答辯は、全く人を喰う様なやり方だ。答辯の要なしとか実に挑戦的であり、五・三事件にも見られる警察メーデの実現も近いだらう。毎日の新聞は國警を増員するとか予備隊を軍化するとか、何一つとして我々のためになる事はない。会社の觀迎する組合は、むしろない方が良い。

発信 品田庄三郎

【六月一日】曇（金）

月が改ってもフヤケかゝった氣持は直らない。常任委員が長くかゝったのは打撃だが、「青魂」の原稿書きで一日終ってしまった。誰に云われるまでもなく、自分で修正していかねばならぬ!! 組合の仕事もやらないで、どうしても自分の身の廻り整理が先に立つ。これで大衆運動が出来るか？出来ない!! 労仿行政的な運動しか出来ない。

帝石が大巾の整理をやった時、最後まで斗わずに來た事は、最低の生活をやるものは炭砒

労働者であり、第三勢力に便乗した鬼畜の如き、資本家の最後の抵抗を食ひ止めるものは炭砒労働者でなければならぬ。炭砒労働者の主体性確立のためには、身命を惜しまぬはづの覚悟だった。フヤケて来ている。

【六月四日】晴（月）

豫記 ノルモザン服用

何とかして鈴蘭狩り募集により割引きさすべく鹿ノ谷駅訪づれたが、予想通り成功し、人数をまとめるべく努力したが、係員不在のため話まともならず。組合に居ても下部機構が認められるまでは活動に入れず。改選前からのブランクを取戻すべく絶好の機なるに、機関の召集おくれ、やきもきする。国際状況は急変し、それにつれても国鉄の大会・炭労大会では全面講和より早期講和への道が強くアピールされ可決されてゐる。産報化を狙ふ労働貴族の悪らつなる手段である。

この様な重要な時機に一月近くのブランクを作る事は、全く組合並に労働階級としての大いなる欠カンである。このブランクを取のぞくためにも、役員任期は一年としなければならぬ。弾圧の嵐と裏切者の大いなる力と**対抗**しても、常に大衆の先頭であるの自覚をもつことが**刊要**なり。

【六月八日】晴（金）

生活が不規則になる朝は飯食ふ間もない位に起き、退勤の時間も一定でなし、帰寮後も讀書するわけでもなし、考へ事があるわけでもなし、畠や鉢の手入れをやるわけでもない。一体何をしているのかわからぬ位いだ。地球は一刻の休みもなく廻り、国内外の状況、又、変化の度が加速度に戦争に近づいて行く。新聞ラジオ等すべての報導陣がこぞって、形は違っても戦争の危機を告げて居り、不規則な生活も止むを得ない段階にはあるが、少しの時間を利用して節度ある生活を希求し、讀書・思考を通じて戦争に反対し、圧迫の度を加へつゝある資本家ヨーゴの特権屋に対しても、替らぬレジスタンスを続けねばならぬ。胃の工合も良くなった。

考へも頭がすっきりして大分復活した。この機を逃すな。起て。筆をもて。

郷里は田植を**近**り**（迎い？）**連日の苦斗を続けているコトト思う。我々の口に入る米は上っても、供出米は上らず。なかんづく強制的に供出を強ひられる農民は、吾々と共に斗わねばならぬ。

発信 魁新報社送金（四、五、六月分）

受信 自宅妹

【六月十日】終日雨（日）

豫記 スズラン狩り中止

盛春の息吹は北海道観光の名物スズラン狩りからと団体申込みしたまでは良いが、昨日

になっても人数がまとまらず、いっそ雨でも、と思った事が本当になって、朝起こされてから終日降続ける。当地にはめづらしい程の雨で、せっかくの計画が見事にひっくり返されてしまった。この調子では来年も行けるかどうかわからない。誠に残念至極であったが、一面団体（三十名）にまとまらざる時の自腹を考へた事が迷われた事は予算上無駄にならず、札幌出張の際、必需品の講入に切替ひられるので、大いに助った。

新制中・鹿ノ谷・清水沢校の運動会・硬球ノンプロ試合・相模大会と数多くの行事を不意にしたいぢ悪るの雨は、夜に入りても止みそうもなく、、ますく繁げく降り続けている。自然と人間の斗ひ（本能）はたゆみなく続けられていく、労資の対立の様に。そして吾々の力が一步一步と向上して行く事、又頼もし。

#### 【六月十二日】曇（火）

夕耘労連常任委員会で労使協議会規約が次回審議される事となり、明日からの炭労大会出席もあるので、ガリ板切りをやって六時帰り、久し振りに文部省推せん映画「緑の果てに手を振る天使」を觀賞する。引揚の一少女が、田舎にあり勝ちな封建的頑固ぢいこの強情を純愛でつかひ、孤独の少女の唯一の楽しみであった汽車に手をふる事さひ禁ぜられ、汽車士、又、新潟鉄道労組の面々と天使の病気を心配し、生命の尊さをぢいこいと争ってまで助けようとし、少女の愛に動かされて遂にぢいこも快良く入院させると云ふ、邦画には良く出来た正義と純情が封建的な頑固に打勝った映画なり。更に進んで、日本独特の人情的な中にも悪に対するレジスタンスを現わす映画のほしいところなり。

#### 【六月十四日】曇（木）

##### 豫記 炭労道大会二日目

中央合宿で雑魚寝をしたせい、風邪の引直しだ。少量ではあるが三食づゝ食べたせい、又、神経質な故か、胃の調子がくずれだした。食事も制限し、極力無理をさけてゐる。今日胃腸が悪いとは全く不可解だ。若しや〇〇から来る症状ではなからうか？何れにしろ早く直さねばならぬ。

大会も二日目となると、いさゝか眞儉味がうすらいで来る。異議なしの声でろくに審議もしない。これでは支部の大会にも劣る。今少し眞儉味があつて良いと思ふ。

米画「西部の無法男」「上州ガラス」ニュース、更に昨夜の「夢の官廷」にしる、どれ一つとして名画（映画としても）として心に残るものはなく、單に目と氣休めのための映画なり。大会初日に前進座・口太郎の云った懸賞付きの迷画がハンランしているとの言が全く適中なり。

西二十丁目小川宅（木賀氏親せき）に宿る。

#### 【六月十七日】梅雨（日）

入梅の影響を受けぬはずの北海道なのに、鈴らん狩りを中止させた雨はまる一週間続い

た。今日もなほ止むさうもなく、続いて佐賀ノ花一行の相模も、故一の目の娯楽である野球も流してしまった。特に、札幌祭りのプラン倒れは大きな損害だったろう。業者はともあれ、たまの日曜をわざく炭砦から話を運んだ労働者諸君の被害も又大ならう。

十二時半までフトンに横わり、無駄に日を過して行く事も勿体なし。最近特に神系質になり、一つの物事を最後までやりとげる気迫が全然なく、ロカール・カラーを十二分に発揮した寮内で、井の中の蛙になる事もつまらぬ事。より、むしろ自分を退化の方法にもって行くとすれば、正に流涙の極みなり。

発信 自宅弟、本庄直明

【六月二十日】曇後晴（水）

豫記 宿直

昨夜の飲み過ぎのせい、ぼんやりして何も考へ度くない。連日の如く自己批判ばかりでは、さっぱり進歩しない。今日も何も形に現われない青婦対策の行動方針を立てようと思つて机に座ったが、さっぱり文章にならない。書いては消し、消しては書いて一日を終了し、しまひには何も残らなかつた。これを組合員、又は常任は何んと見ているだらう。おそらく遊んでみたとしか見るまい。それでは全く不利だ。情教部の場合は新聞を読む事も正し情勢分析の上から云つて明に仕事であり、最も頭の使ふ仕事である。こゝで勤肉労働だけが労働でない事を深く認識した……。深く考へて目的を掴みたい。最近の心境は全く浮いた形で考へても実行しても、何一つとして実の結ぶものはない。こゝから新しい人生への希求が生るや？

【六月二十五日】曇後晴（月）

豫記 第一回青婦対策委員会 宿直

考へがなかくまとまらなくて、遂に対策委員会に呈案する資料すら書きそこねてしまつたが、二十二日以降の頭のサエは炭労大会を契機として次第に考へ方を深く進め、理論的に進めようとして来たが、遂に第四回の脱皮（生長）は出来る（その理由は新聞社説の熟讀・國際との関係を組合運動と結び付ける事の成功により、状勢分析の理論化の実践等の出来た事）。

残れる問題は、国内状勢分析・政治（改正法令等）との直結・行動の合理的方法による能率化・大衆の掌握（特に青年戸）を目途に話して行きたいと思つてゐる。されど、対策委員会も成流すれくで成立だ。中途から逃げる者もなく、近頃の青年戸にも斯くあるやと思ふ。現在のものはすべて最高ではなく、耕して肥料をやればいくらでも大物は出来る。

受信 川村千代岳、弟進

【六月二十八日】晴（木）

豫記 菊四号移植



昨晩中に青魂編集を終り、引続いて名簿に鉄筆をもてば、右手が凝って不自由な位いだ。スクエヤダンスサークルの汽車賃も出させたし、青年部の陣客も備ひ、前期よりは活発に動けそうだ。自信をもって着々と仕事を進めよう。

菊移植の鉢一個足りなくてさがしている時、昭和台吉田氏夫人より郷里の先輩、佐藤市三郎氏と従兄との事なり。秋田県人より発展して八森一能代と探求して、遂に佐藤氏の事まで行きついたわけである。思ひは三年前の離郷の際に佐藤氏より従妹が夕張に居るとは聞いたが、どうしているやら」の言を思ひ出し、広い様で夾い此の世の中と一考せざるを得ない。

旅と云ひども、悪い事は出来ぬものである。何時どう云ふ事があるか知れず、労農者解放のために心血を、そして斗わねばならぬ。

#### 【六月二十九日】晴（金）

議事録整理には参ってしまふ。早く書記を採用して貰い度い・行動方針の具体化・生婦代表者会議の議題審議もやらねばならぬ。青魂も、そして一日よりの無防備都市の資料もプリントで流さねばならぬが、ともかく議事録整理で一日半もつぶれる事はやり切れぬ。考へ方は第四回の脱皮をしたが、あまり仕事がたまって頭がこんがらかってしまふ。晝は野球・バトミントン・鉄棒とスポーツをやり、夜は菊の手入れやら散歩で終り、どうしても夏バテ気味である。六月中は本当に出来るものも出かさずに終らんとしている。今こそ革命家に与へられた時間を無駄なく使って行かねばならぬ。砂川のスト・マリク呈案による株式の大暴落・平和への動き・日本の追放解除により戦争の機は拡大されつゝある。すべてを反戦に捧げねばならぬ。

#### 【六月三十日】晴（土）

入る金も少かったが、出る金も又少かった。来月は祭典の準備に少送金せねばならぬと思ふので、出来るだけ切りつめねばならぬ。マリク呈案をめぐって朝鮮問題も一年ぶりで解決のきざしが見え、物價は税金旋風もあって次第に値りしている。ウオール街の株は動乱以降の最大暴落だと云ふ。今少し下って貰へば背広も作り度いと思ふ…。

菊の移植によって今秋は楽しみが一つ増ひ、花を咲かせるに全力（花のための）を上げねばならぬ。

青年部の仕事も減食後の快調な体力にめぐまれて、やうやく斯道に乗って来た。来るべき八月十五日の終戦記念をめぐり、或へは新貨銀斗争に備えて萬全の準備をせねばならぬ。偉大なる青年の行動力に物を言わせる時のために…。組合の大綱・青年部の行動方針が決定した。来月からは具体的に活弁するばかりだ。

#### 【七月一日】雨（日）

昨日の残した「文化ニュース」作成のために組合へ出掛。取場野球か？籠球大会か？と昨夜は胸をハラくしながら見て寝た空も朝にはもう大雨と変って居り、今日も目と耳と身体

を満足させる事は出来ない日曜日となってしまった。天をうらんでも自然にさからっても仕方がないと思ひばそれまで。正義のために青年のもてる行動力と批判力を集中する事も、吾々に与へられた特権だ。一日の休養は一週間の酷使に甚へるためだ。休めるだけ休んだら、明日からは新しい希望に燃えて斗ひを続けるのだ。

札幌にて文化部長・青婦代表者会議があり、もう今年度の行動方針を決定する事になっている。月始めに当り、今月は具体的に行動を開始する月であり、其の成果も充分見られる事を信じている。

【七月四日】晴（水）

#### 豫記 第一回炭労青婦代表者会議

六時十分前起床。急行にて上札するも、品物は確かに若干安くなっている傾向にあるが、金欠病者には欲しくもなければ思ってもかなわない。

暫く振りで吹上げの件で大いに張切って、さすが新夕張と云われたが、代表者会議も次第に本来の性格をとり戻しつつあるが、未だく人材にとぼしい。役負にしてもなっていない。青年部が斯様な状態では、炭労も早期講和も止むを得ぬだらうの結論も、あひて何をか云わんや……。しかし、これでは如何ん。経費もひまもないが、どうしても代表者会議のリーダー格になって引張って行かねばならぬ事確認せり。仕事は更に上部においてもふひている老ぼれに、組合運動のお株をとられてはだめだ。あくまでも純真であり、行動力に正義の駒を堂々進めるものを選らばねばならぬ。

【七月八日】晴（日）

#### 豫記 運動会

昨夜までの雨もきれいに晴上り、十時より競技開始となり、松島坑代表として八百リレー・寮対抗一千米・スーエデンの二百と走ったが、一五〇マデの調子は良かったが、其れ以後悪く、二回とも転倒しビリになった。しばらくやらなかったとて、自己のペースが解らず、八十位より馬力を出し過ぎて身体と足のバランスとれず転倒したものなり。幸ひにして後者がよく、最下位にはならず済んだものの、全く遺憾の極みなり。

昨夜より下痢のせいもあり食欲がなくラムネサイダー・牛乳等、飲料ばかりで一日を終る。賞品、丸首シャツ・タオル一本。補欠出して走らせるべきであり、伊藤君・八柳君の交替は良くないと思ふ。

【七月十四日】晴後雨（土）

#### 豫記 昶場対抗野球準決勝（敗戦） 宿直

快晴につき傘をもたないで行けば午後からは霧雨となり、昶場野球が始まる頃より少雨となった。優勝候と目された支柱も遂に投手の不出来で貧打故に、コールドゲームを宣せられた。当直をマージャン組に委かせてせっかく力戦したが、敗戦は止むを得なかった――。

マーチャン組もよく續くバクチだ！生活の破壊者だ！健康を害するのだ！専従者がヤセルとかか、おそくなるとか云ふが、確かに仕事は疲労度いが多いが、マーチャンなるものも頭をつかふ事おびたゞしいのと、徹夜するだけ興味が湧くのとで、更に疲労が倍加する事は考へられる。

健康を保つに必要な運動・金・娯楽でなければならぬ。一千八百人の生命をアヅカル常駐者は責任の重大さと組合負信頼の上に立って、健全なる思想と強固なる意志をもって、断固斗わねばならぬ。

受信 妹

### 【七月十六日】曇（月）

予算生活をしていると何んとなく気分が良い。今日も貯金五〇〇〇円と送金のための三〇〇〇円を支出して、第一段階は過ぎた。第二は小口の支出内容だが、背広を作り人並みの服装にするための来月の予算を繰合わすために、極力切り詰めねばならぬ。

朝鮮動乱終息したとしても、列国の軍拡予算は急ゲキには減ぬだろう。むしろ、資本主義と社会主義の対立が新しい段階に到達し、弱少国の革命運動がソ・中共を中心として更に発展するではなからうか？さすれば、来月一ぱいで平和産業・戦争準備の予算ではっきりした形がとられれば、再び物價は停止、或は電氣料其の他の値上りで高トウするかも知れぬ。状況分析の不足はあろうが、来月はなんとかしたいつもりである。

### 【七月十八日】時々雨（水）

中央大会の報告の中にもまとまらないものがたくさんあり、最近の心情と良く似てゐる。ぼやける時機か？気分転換のために昨日送ってよこした白ガスの夏物を着たり・朝食をとったり・散歩したりやったが、やはり消沈したまゝ浮かばれぬ……。郷里からも便りがくるが、中々に筆が進まない。最近の黒い気持は知らせたくないが、大いなる希望をもって渡道しただけに、郷里の後輩同輩は便りを待っているだろう。今日こそ出そう。今日こそ必ず出さうと思ったが、妹へ便りを書いている中に十一時半を過ぎた。連日の睡眠不足もあるので、又々せっかく張詰めた気もゆるんでしまった。会社に対する斗ひでなく、自己のタルム氣持に対しての連日の斗争で、疲労し切ってしまう。何んたる不聖濟な事だ——。

受信 山本満穂

### 【七月二十日】晴（金）

全道レクリエーション大会派遣費一部補助請求のために、鉱業にて文句をしたゝか並べて、遂に獲得す。夕労はこうだ、あそこはこうだと云ってごまかそうとする。交渉の径儉の少ない俺は、充分慎重にやらねばならぬ。料理の講習会等に於いても、待ちきれない下部の意向を無視して一方的に延期中止を申入れてくる。人好の（自分ではさう思ふ）俺はそれによしとして受ける。こゝに大きな労組幹部の欠カンがある。意志を通さねばならぬ。



一日一回は必づ牛乳を飲まぬと気が済まぬ程、食事がうまくなかった。四時過ぎると直ちに退勤したが、炎熱の下、ユカタ恋しやの夕ぐれ時、山を下りて喉をうるほす。冷めなくなった人が笑ってもおかしくもないきれいな人を見ても、ほとんど目にうつらぬ――。

#### 【七月二十二日】小雨（日）

梅雨過ぎとは云ひながら、最近の天候は日曜日を完全なる休養の日にしてしまふ。冬期の長い夕張を、せめて夏の日曜日をレクリエーションに。碧の一日にしてやり度いものだ。忠氏に野球帽子・ボール等を買ってやったら三〇〇円をし、未だ〇〇〇〇。

#### 【七月二十七日】晴（金）

##### 豫記 紙芝居

労務へ接渉したり労務事務所へ歩いたりしてあわただしく一日を終日したが、更に退勤後は青婦対策部の紙芝居に一区・昭和台と出かけ好調を博した。児童対策のみでなく、合わせて主婦対策も考へて行かねばならぬ。ケン忘症にかゝったのか物はわすれる。深くは考へられぬ……。どうしてこんなになったのか。讀書熱もなく其の他の欲望も不思議な位い無くなった。敢えてあると云ひば、飲料（ラムネ・牛乳）程度のものである。夏バテか？否、絶体にバテる事はない。自分の精神力の弱さと希望のない事が大きく後退する原因でなかるうか？

#### 【八月五日】**後**（日）

なる程、雨が晴れると暑い。此の分だとどうやらユカタも着れそうだ。今の中に着ないと、又すぐ秋をとばして冬がやってくる。ユカタの着れる中は大丈夫だが、こんな事で農村は一体どうなのか。凶作まで行かなくとも平年作はおぼつかないらしい。

栃木へ帰った友人の石井君から、なつかしの便りが来た。自分で出さないでおきながら、他人から来る便りは妙になつかしいものである。廃寮問題もあり、対策委員会後の行動の具体化についても仕事が山積しているの、当分は便りも出せぬ位いだ。

郷里へも帰り度くない。それは無駄金がかかるから…。妹も年頃であり、農村の税金セン風も来る。無駄使ひはゆるされぬ環境にある。

受信 石井実

#### 【八月八日】曇後雨（水）

終日ガリ切りをやったのが肩が凝って頭がががんとする。病院に下山氏子息を見舞ふべく、限り無い執着をユカタにもって帰ってみれば、珍しい夕立にすっかり気を腐らせ、長ぐつ姿で病院を訪づれる。寮長の件につき、下山氏に依頼する話から四方八方話しをして九時帰る。

首切られる事は死刑の宣告を受けたと同然である。反省の色あれば何とかして助けてやり度い。彼も一個の可哀想な（意志・生活力共に）労働者である一。来年の事云ふと鬼が笑ふと云ふが、明年八月の帰郷を目途に（登別・大沼・十和田湖）旅行積立ての話が出た。帰途ではあるし、金取りの悪いのもあって、半強制的に二〇〇円づつ積立て、明年は五名揃って名所見物方々帰郷すると云ふ。非常に熱心なが云ぐさだが、果して続くかどうか？

【八月九日】曇後晴（木）

豫記 執行委員会 宿直 理髪

久し振りの当直で、今までの残務を整理する事が出来た。ぐらついた頭の中で考へるため、どこかに穴が出来る。平和文化祭の予算も穴だらけだったが、今日は落着いて日記・平和文化祭行事のプランを立てる事が出来た。

髪なのびたせいもあるだろうし、青春の血が止めども無く湧き返っているせいもあったかも知れぬが、とにかく髪をつめ、執行委員会も終って一段落着いた事は、明日からは必ず思ふ存分の仕事が出来たろう。平和文化祭も近づき、アンカンとして居られぬ。

【八月十八日】晴 酷暑（土）

昨日までの宴会で腰がガタつく位いなり。これでも金輪際酒を止め氣の起こらぬのはどうした事か？根が好きなのと珍らしき会合等には必づ出る、酒の味が恐くわなないせいかも知れぬ。ともかく浅田氏不在の所で飲む事しばし。瀧川でビール等に涼氣を求め、一列車の運休により合同列車の殺人的混雑の中で、瀧川以来若菜辺まで三時有余時間立通しの殺人的な混雑振りにはおどろいた一。これもみんな政治の貧困からくる相つぐ國電事件事故によって、客車の改造が行なわれつゝあっての車輛不足から来るものと……。

後輩諸兄に礼状を出さうと思ったが、頭のぼやけたのと落着かないので机に向ふ氣はなく、遂に氣持では一ぱいの感謝の意を表しながら、空しく床につく。

【八月二十一日】晴 酷暑（火）

豫記 宿直

深夜の風は正に秋愁の感あるも、日中の暑さは又格別にして盆過ぎには見られぬ程の暑さなり。昨夜の寝不足と野球による体力の放出によって朝から眠くてやり切れぬ。地区協委員会に賃銀斗争に関しての説明もあり、十日以降賃斗をひかひて、これが明確な理論づけのために眞儉に討議せねばならぬのであるが、何かしらキケンなものを感じて、どうしても割切れない臭もあって、居眠りばかりして帰って来たが、来てからもやはり眠ってやり切れぬ。晝寝して夜は宿直につき礼状やら日記整理に全力を上げねば。とかく惰れ気味な最近、他の人に追ついては行けぬ。賃銀問題もなんだか割切れぬが、このまゝではだめだ。単一炭労を育てるためにも、組織の力をかけた斗争に勝抜く態成をつくらねばならぬ…。

【八月二十二日】晴（水）

豫記 第二回連斗委

賃銀斗争も窓口交渉が拒否されて（当初は簡単に応じるだろうの見通しが）いよく主体性確立のための斗争が活発になって来た。窓口交渉に応じさせるためのスト権の集約（日聖連の方針として窓口交渉に全力を上げさせれば賃銀の時には充分斗えない）をどう処理していくかについて、討議の結果は二十四日三番より投票する事になった。今こそ割切れぬ面は割れぬとして、ともかく組合運動の中心斗争目標たる賃斗にはどうしても勝ち度い。勝たねばならぬ。それがための宣傳啓蒙にも萬全を期して斗ひ度い。

【九月三日】雨（月）

豫記 第四回青婦対策委員会 宿直

「男心と秋の空」と変り易い事をさして云う……。男心には反対だが、秋の空は実に変り易い。傘をもって出たら必ず晴れた夏も過ぎていよく恥をかかなくても良い気候になった。夜の涼しさは格別だが晝もアイスクャンデーを食べた今日はさすがストーヴの側で北海道らしい氣分を十分に味わった。

対策委員会をもったが、人数が七名で流会してしまった。流会したから次の対策委員会まで仕事をやらぬと云ふ事は、現在の青対部では出来ぬ。編側ではあるが専門部長会議の決定に従って仕事を進めて行くつもりだ。

秋の空のように変り易くは仕事が進まぬし、講和会議をもひかひて微妙な動きの中で、青年の心が秋の空のように変っては足りない。

【九月二十七日】晴（木）

豫記 宿直

朝夕の寒気は十一月頃の氣候だ。秋もこうなったらもうお終ひだ。風荒れ、木の葉色づき、やがて白魔が訪づれる頃になると、今までの青新の気はどこか殺バツなものが感ぜられる様に、秋は確かに一年のメ切である。文化・青婦対策も今秋で終りになるかも知れず、今の中にしっかりした地盤を作っておかねばならぬ。それは自分のためにではなく、愛労運動の手先とも考へられる者が組合内に居るらしいから、それら反動分子のために文化活動を…。青年活動を封殺か？或は娛った方向にむけられぬために基金と人物の後ケイ者を、誰にもくづされぬ人と組織を作っておかねばならぬ事なり。

【十月四日】曇（木）

昨夜ゆっくり眠ったおかげで疲労は大分回復したが、出勤した途端に宿直とは全く恐入った次第である。仕事も残っているので丁度良い機会ではあったが、久保田君のサウギの總決算もやって遺家族の来夕を待ち、責任もって報告せねばならぬ義務もある。ともかく帰って来て整理している中におそくなったので、木村君に一任して寮で休すむ。一刻も早く疲れを

回腹して、来るべき大会一貫銀斗争に備えねばならぬ――。

防空演習も行なわれようとしている。再軍備の前に社会党の分裂の徴候あるは、労働者階級にとって正に大きなマイナスである。

【十月五日】曇（金）

豫記 写真出来る 有休

常任委員会報告が済んでから、直ちに有休をとった。理由は故久保田君の父親が昨夜はるぐ内地から迎ひに来たので、生前の、或はサウサクの経過について説明し、費用の引継ぎ並に関係方面のお礼案内等のためである。五時には最後のお別れを致すべく、寮員各位の協力を得て送った。

特に本日感じた事は、通俗的な事と常織と正義がそれぐ、吾々から云わせれば格段の差がある事を身をもって聖験した。これが故に都市の人と農村の人の人情が喰違ってるでわなかろうか？とにかくカケ引の歹い、虚礼の歹い社会を健全な、そして自由な社会に作り上げねばならぬ。それは吾々青年であり、吾々の子孫である。

【十月七日】晴（日）

豫記 第十三回定期大会

眼を覚めたら六時半。出勤時間に間に合わず、昭和台から直ちに連呼す。秋の取入れ時で、大根背応の姿を見た時は、成立にいさゝかの不安を感じたが、委任状を含めてやうくの成立だった。大した議題もなく、役員改選だけを四月まで延期致しまして、十二時四十五分終了した。労組結成以来の大会新記録であるさうだ。熱がなくなったのか。それとも議題が少なかったせいかな？

映画も二本続けてやったが、一場面毎の感情は胸にこみ上げるが、物語は馬鹿らしい程の作り物だった。役員改選が延期されたので、重要ポストをねらう某氏達は正にぎゃフン。大衆もわかりつゝあるかな？

【十月十日】晴（水）

早春以来手にかけた菊がいよく開花の兆しが見えて来た。朝な夕な水をやり、日に当て、霜をよけ、肥をやる仕事を繰返しただけに、現在の淋しい（淋しいのではなく、思考の統一が欠けることになるかも知れず）氣持をなぐさめてくれる友人としては、唯一つあるのみ。雨にも負けず風にも負けぬ生へ強さ。健康満ち溢れる葉の天に向っての深呼吸、一茎一花健実さは当然学ぶべきものなり。夕張炭砒文化祭総合展示会にも出し度いが、今年は三つ目の花なので大失敗した。明年ならば一年の聖験でなんとかやり度い。

無理に考へようとするためか？走馬灯の如くかけめぐる歴史の頁は未来の空想となって神系衰弱を成立させるようだ。

【十月十二日】曇後雨（金）

豫記 伊藤帰山

廃寮の問題もいよく具体的に決定しさうだし、伊藤君の帰山で郷里の不景氣の状態も良く解ったが、九月初旬よりのなやみの種はつきず、讀書にしても原稿作成にしても、遂に満足なもの一本生み出せず。青魂編集もおくれ、対策委員会、児童対策もあわれ空想と消え去らんとして、更に一戸の経済的・精神的なやみが重なる。買ひ度い物なし（衣欲）、食欲なく、住宅の希望も消失せんとして、生活の根本たる衣食住に人間らしい欲がなくなった。大きな希望に燃えて渡道し、敢然と組合運動に飛込んで一年。正に希望のともしびまでが消えんとする。人生の岐路に立った感がある。苦しい目をつぶれば、最先に浮かぶは性の芽生ひか。彼女共の顔が次々になやましく脳裡をかすめる。それに負けずと、斗ふ心は更に深く想ふだけで、誠に苦しい青春の最近である。

【十月十四日】曇（日）

豫記 新興寮大会 宿直 日記整理

前回の当番の時に少しインゴーしてやったために、絶好の觀楓会日和だった。今日の日曜日はおとなしく宿直する事になった。

寮の最後の大会に出席出来なかった事はくれぐも残念だったが（しかし、もみにもんだ後なので、あとは一人々々の自覚の如何だけであって、敢ひて出席しなくても良かったかも知れないが）、宿直も組合運動の一環だと思ひば、おろそかには出来ぬ。二三日前より身体の調子が良くなったせいか、気分がすぐれて来た。今日を機会におくれているものを整理し、明日からの運動には活を入れねばならぬ。それが出来そうだ——。電話をかけてくれとは云って来たが、とうく来なかった。どうしたのだろう。

叔父宅へもしばらく行かぬのでたまにはとは思ふが、例の件があつてからはあまり気が進まず。

受信 自宅弟（進）

【十月二十二日】曇（月）

豫記 銀嶺荘生活一日目

六時四〇分 起床

七時 朝食

七時二〇分 出勤

四時三〇分 帰寮

入浴・夕食・自由

就寝十時

（日課案）

長沢君退院 ← 追記

六時四〇分に起きればゆっくりだ。出勤時間だけは少々早い、それも現場行きと比ぶれば樂の一語だ。一応日課を立てて見たが、中村氏と別れただけで討論はなく、したがって讀書による智識の吸収は可能なり。この機会に大いにやり度いと思ふだけ。又、長沢君退院して来たが、此の部屋の中心としてリードして行かねばならぬ事をひそかに誓っていただけに、仲々つらい。長沢君も他の部屋へはやりたくない。さりとて、自から進んでこの部屋に五名入る事も好ましくないが、当分なれるまで頑張ろう。

【十一月九日】曇（金）

豫記 理髮

炭砒文化祭の予算書呈出のために砒業所へ行き、夕映労連へ寄ったら、「労働文化」の記者を囲んで炭砒の文化運動に関する座談会を開催するから参加してくれとの事。何も整理しているわけでもなく、又、文化の核心をついた理論も持っていない現在では、何を云って良いかわからない。しかし、今後の方針については、吾々は炭砒文化の床作りであり、夕張の文化を向上させるには床を作って「種を蒔かねばならず（野菜）野草も改良して野菜にせねばならず（可能性のあるもの）、雑草は積取らねばならない」の理念に基づいて、改良するため、育成するための肥料（文化資金）を獲得する事が当面吾に与へられた仕事であり、これを遂行する様に機構も替えて行かねばならない…。外にプロ野球の勝利投手・負戦投手の理論づけについてやったが、結論出ず。勉強するための取材はどこにもある事を、今更ながらはっきり再認識する。

【十一月十二日】晴（月）

昨日も一時、一昨日も一時と身体に無理をしている。しかも朝は部屋の者の経済的な、そして労協関係をも考へて休んで貰ひ度くない真から、五時半には起こしてやらねばならず。氣を張っているせいか、疲れがさっぱりとれない。疲労は習日の仕事にも必ず影響する。今日も昨日の文化祭の予算書に基づく精算書作成に一日かゝったが遂に出来ず、仕事を中途半端でやめてしまった。寝不足は最も悪いと知りながら、やらねばならぬ…。朝は余程休もうかとも思ったが、休んでも居られぬ。この身分もう少し意地が足りないではなかろうか。労農開放戦士はたゆみない斗いの道をあゆまねばならず、身体がつかれたとか寝不足位いで仕事がつらいで到抵見込みなしである。これを切抜けるはいわゆる精神力の問題である。

【十一月十七日】晴（土）

豫記 旅行積立金四回目 新聞代（十・十一月分）

午前中は委負長の上京報告常任委員会以終ったし、二時から全日本対米大リーガーとの最後の一戦を聞いたために、本日の仕事は幻灯幕一枚を獲得しただけに終ってしまった。何んと云ふフヤケタ態だろう――。

四時終了と同時に歸寮し、一升買つて親友下山氏の引越祝いを兼ねて訪ずれる。何時も変



らぬ口悪の良い男…。不満を打明けられうる数少ない友人の一人。四方八方話も例によって例の如く遂に奥様を休ませて二人だけの会合となり、あまり気も進まなかったが、とにかく一升空けて帰るは午前二時なり。合成二級は喰わずに飲めども酔せず。緊張の酒はまわらず。

【十一月二十二日】曇（木）

豫記 第二回執行委員会 宿直

もう少しと云ってる中に夜が来て、遂に一睡もせずに寒天の下で語り明かしてしまった。朝帰りはあまり格好の良いものでわなく停電を幸いに五時半帰寮したが、起床の時間でもあるので火を燃やしている中に眠られず、がまんして出勤したが、出勤後は大した事もなく晝寝をしようと横になったが、かひって頭がさひて眠れぬ位だった。一日位いの徹夜は別段大した疲れを感じない事をあらためて認識した。

執行委員会で賃銀斗争経過の確認・常任給与の件がかかるが、質の落ちた執行委員会でわおそらく大した論議もなく終るだろうと思っていた所、案の定七時半頃終了した。仕事はやり易いが、組合運動の本すじに反してないか？

【十一月二十四日】晴（土）

豫記 降雪一寸位 一区幻灯会

張切った賃銀斗争も終り、これからが文化活動のシーズンである。やらねばならぬ仕事は山とあるが、ともすると仕事から取はづれたまゝで終日を過ごす事すらある。これではいけないと思ふ…。そこで、料理講習会メモのがり切りをやった。久し振りに握ぎる鉄筆に力がこもるが、やはり思ふように走らぬ。やはりたゆみない努力を常に続けねばならぬ事を痛感した（一区で幻灯会をやったが、これも僕一人。しかも、しばらくやらぬので口が思ふようにまわらず）。

中央大会も近づき、前大会から今次賃銀斗争妥結までの間の問題は非常にむづかしい。しかし、B案の決定もひねくれて遂行出来た事を思ふと、組織をこわす事も治安三法をひかひて出来ない事だが、ともかく育成する事を前提に徹底的な批判を行ふ事にして、もう一度くわしく勉強する事が感要である。

【十二月一日】晴 夜暖（土）

全国大会参加のために生づる種々のブランクについては、最少限に喰止ねばならぬと思ひてんてこ舞の最中に、義雄からの相談により一時なりをひそめた家庭争議の問題も刃物持参すままでに至り、最早や平常の状態とは考へられなかった。夕食後、大儀だったが結局俺が入らなければと思ひ、意を決して乗込む。種々の問題はあれども前回と遠って中間的な存在はなく二つの対立になり、しかも兄の方が何かしらの兆発的な行動があり、それにつれて母親が作戦に引かゝり今回の一件となったのであろうと思ふ。最早や收拾出来る問題ぢやなく、円満に別れ得れば一が最後の努力になるのであろうと思ふ。大半は了解し兄も主眞を良

としたので、明日会見し円満に（己への幸福をねがふあまり）わかれさすべきであると思ふ。  
11時帰り一時就寝。

#### 【十二月二十二日】晴（土）

幻灯大会予算獲得のために適当な予算を立てねばならず。昨夜の宴会で疲れた頭をひねくり廻はして考へたが如何ともし難く、蒙ろうとせる頭は新聞見るすら嫌になり、仕事の手につかない。しかしながら、やらねばならぬ仕事は山積している。一、幻灯大会ビラハリ・一、ダンスパーティー会場接渉・予算按分等・正に十二間勤務をしても一人でやっているはたまらない。そこでとり合ひずスクエヤダンスだけはサークルに任かせる事にして、仕事の繁雑さを防ぐ一。

一升四合の酒が六人で若干残った。正に頼もしい限りだが？残りの三合位いで又つぶれるとは…。洗濯して就寝せるは十二時一。

#### 【十二月二十六日】曇 寒（水）

##### 豫記 理髪

何時もながら飲んだ後は食欲がない。そればかりか、何時の通りの寝姿ではあったが、起きてみれば帽子も手袋もなく（園部宅に置忘れ）おまけに長靴はどこかに引掛けたらしく、大きな穴があいて居り、昨夜のこの格好を見た人があったら、さぞかしびっくりしたろうと思ふ位いの醜体だったらしく、今朝はたゞ頭をかくだけだ。これでクリスマス行事も正月行事の計画も一応終わったので安心だ……。

輝やかしく明けた一九五一年の行事の概略を終了して、残るは明年の計画だけだ。一年中を通じて休むひまのない、組合運動だけが最も適当であり度い。

#### 【十二月二十八日】（金）

飯も喰ひ度くなし。飲み度くもなし。しかし、身体も大して疲れてもいない。出勤前にもう一ぺん交番に寄って、夕べの理論が間違いでなかった事を再確認させ、堂々と出勤す。飲んでも理論にうそはないと云ふ事で、しかも警察相手に立証したことは痛快だ…。

年賀状を書き、個人関係四二通、青婦対策部五〇通を整理して出す。

発信 青婦対策部五〇通、四通年賀状

#### 【十二月二十九日】大雪（土）

雪のない正月を迎ひるのかといさゝか心配気味だったが、今日の降雪をみてはびっくりせざるを得ない、今年最高の雪であらう。朝から終日ひっきりなしに降り続け、尚止まず。長沓を修理に出したが、夜に入りても取りに行かず。年末をひかひてが仕事は何も手につかず。教養講座も行かずに終ふ。向上心うすれ讀書熱さめ、日常業大義と良きところ更になく、一九五一年は正に予想の年だったとも云ひよう。それは、年頭に誓った事が半分しか出来な



い事であった。今年は後悔なき年にして来年の計を立つべきだ…。  
十一時過就寝…。